

2005年3月期 決算説明会



2005年 5月12日

ホームページ: <http://www.yachiyo-ind.co.jp/>

問い合わせ先: 事業管理室 栗原 義弘

e-mail: yoshihiro_kurihara@yachiyo-ind.co.jp

TEL (04)2954-7331

決算報告

常務取締役
管理本部長

杉山 幸右

中期経営計画

代表取締役社長

大竹 茂

常務取締役
管理本部長

杉山 幸右

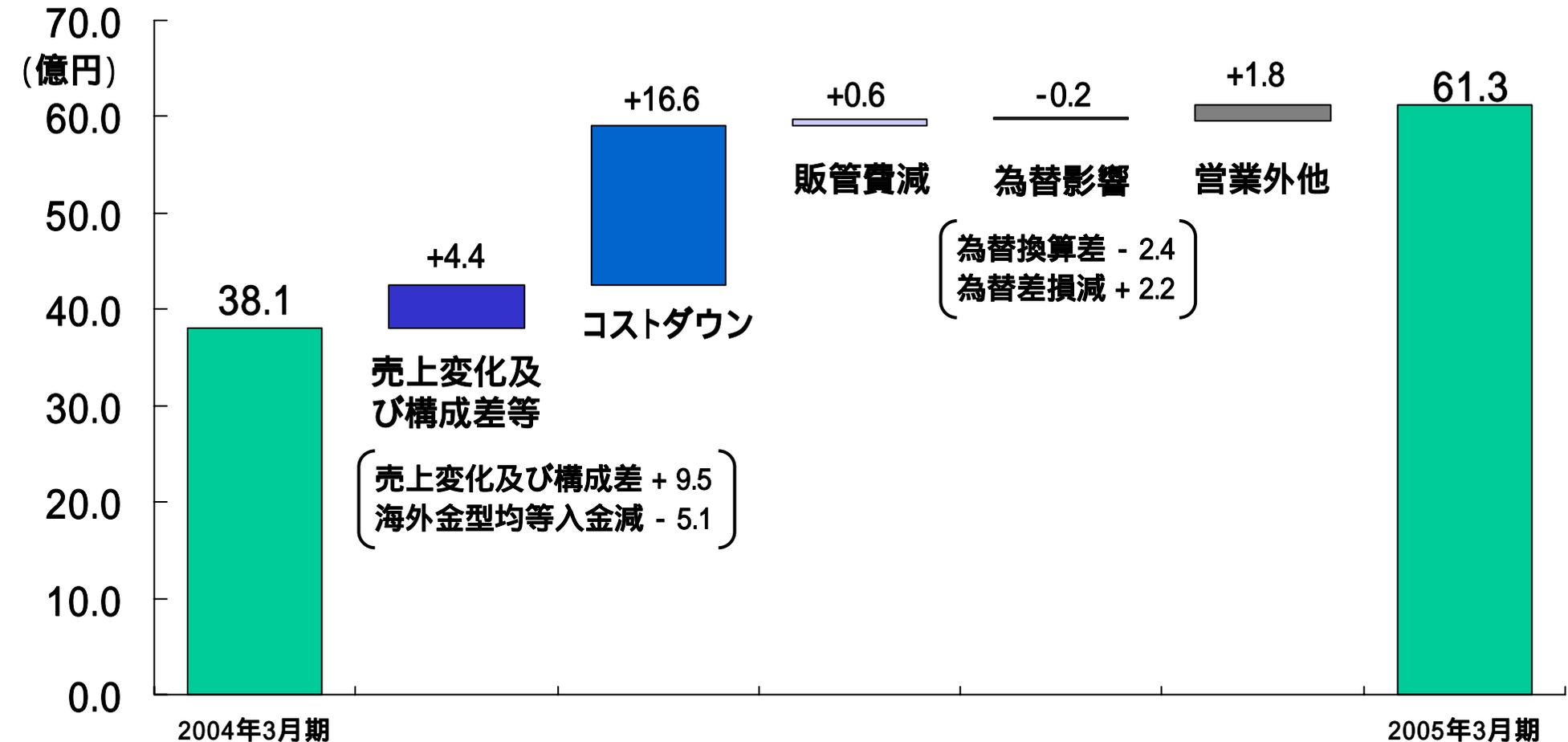
2005年3月期 決算報告

- ◆ 連結業績
- ◆ 連結貸借対照表
- ◆ 連結キャッシュフロー
- ◆ 単独業績

	2004年3月	2005年3月	対前年度 伸び率	コメント
売上高	2,497億円	2,762億円	+10.6%	-
完成車事業	1,246億円	1,355億円	+8.8%	生産台数 2.4万台増
部品事業	1,251億円	1,407億円	+12.5%	国内売上 増 128.0億円 アジア売上 増 34.2億円 北米売上 減 5.8億円
営業利益 (対売上高比率)	39.1億円 (1.6%)	58.3億円 (2.1%)	+49.1%	売上変化及び構成差等 4.4億円 コストダウン 16.6億円 為替換算差 2.4億円
経常利益 (対売上高比率)	38.1億円 (1.5%)	61.3億円 (2.2%)	+61.1%	営業利益の増 19.2億円 為替差損の減 2.2億円 金融収支の改善 1.1億円
当期純利益 (対売上高比率)	17.5億円 (0.7%)	33.5億円 (1.2%)	+91.5%	経常利益の増 23.2億円 固定資産除却損の増 1.0億円 利益増に伴う税金の増 4.9億円 少数株主利益の増 1.3億円

2005年3月期 経常利益変化(連結ベース)

売上高	2,496.9	+ 265.6	2,762.5
(完成車事業)	(1,246.3)		(1,355.5)
(部品事業)	(1,250.6)		(1,407.0)



売上高

	2004年3月	2005年3月	対前年度伸び率
連結売上高	1,246億円	1,355億円	+8.8%

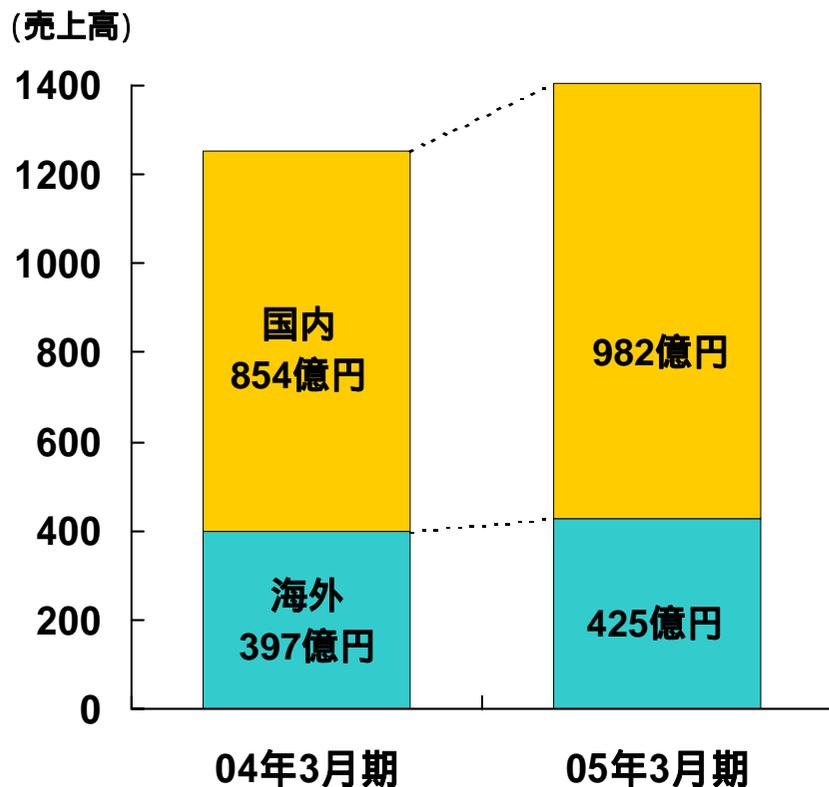
生産台数

	2004年3月	2005年3月	対前年度伸び率
生産台数合計	19.4万台	21.9万台	+12.5%
ライフ	10.3万台	13.2万台	+28.2%
アクティ	9.1万台	8.7万台	-5.1%

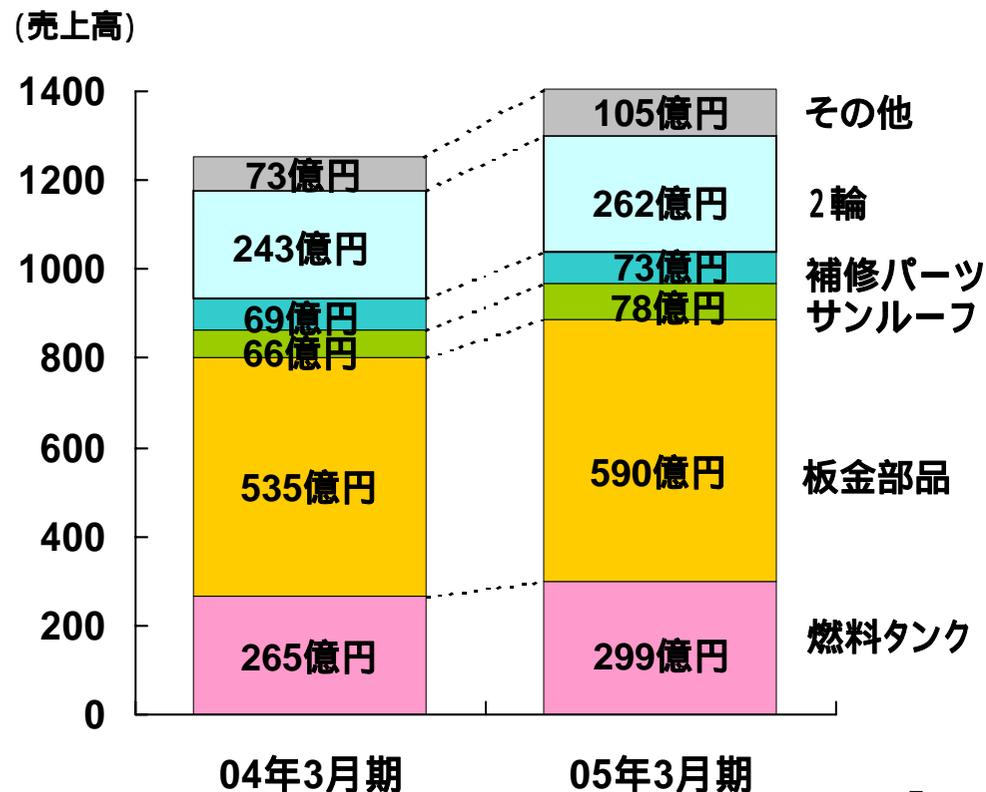
売上高

	2004年3月	2005年3月	対前年度伸び率
連結売上高	1,251億円	1,407億円	+12.5%

国内 / 海外区分



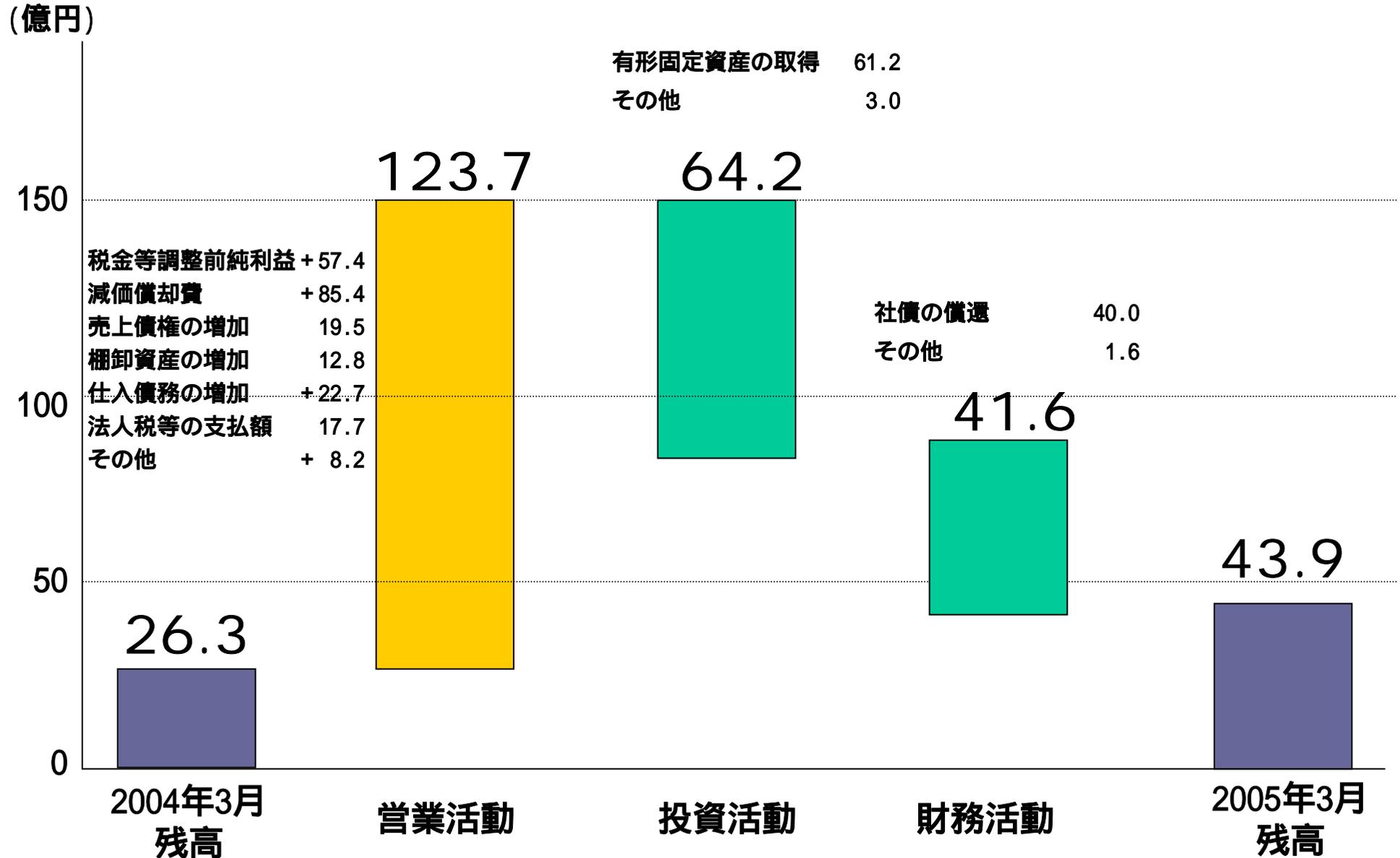
部品別区分



連結貸借対照表

	2004年3月	2005年3月	対前年度 伸び率	コメント
総資産	1,049億円	1,074億円	+2.4%	現金及び預金の増 17.5億円 売上債権(主に部品事業)の増 18.7億円 在庫(主に売金型)の増 16.9億円 有形固定資産の減 37.0億円
株主資本	259億円	294億円	+13.5%	利益剰余金の増 30.3億円 有価証券評価差額金の増 2.5億円 為替換算調整勘定 2.1億円
有利子負債	333億円	296億円	-10.9%	-
株主資本比率	24.7%	27.4%	+2.7P	-
1株当り 株主資本	1,078円	1,224円	+146円	-

連結キャッシュフロー



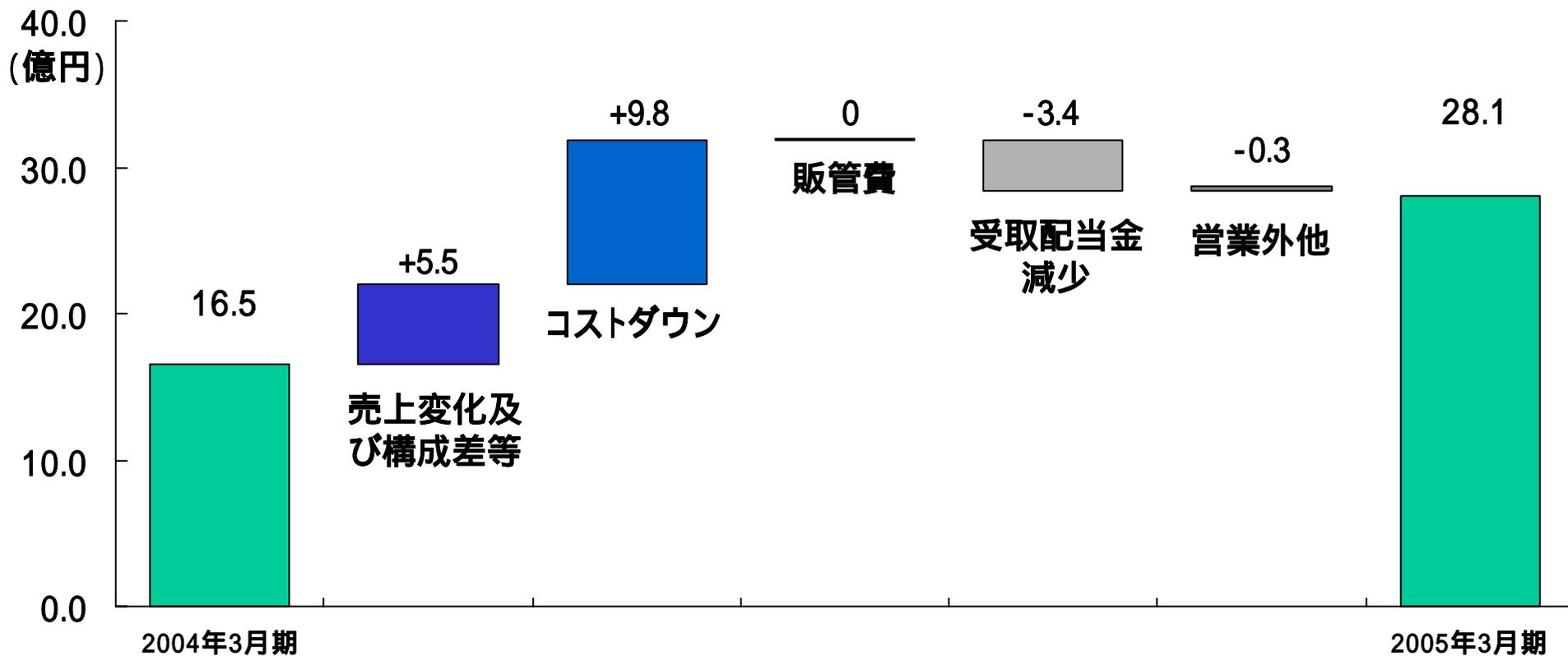
	2004年3月	2005年3月	対前期伸び率	コメント
売上高	2,034億円	2,268億円	+11.5%	完成車事業 +109億円 部品事業 +125億円
営業利益 (対売上高比率)	12.0億円 (0.6%)	27.4億円 (1.2%)	+127.7%	売上変化及び構成差等 5.5億円 コストダウン 9.8億円
経常利益 (対売上高比率)	16.5億円 (0.8%)	28.1億円 (1.2%)	+70.3%	営業利益の増 15.4億円 受取配当金(子会社)の減 3.4億円
当期純利益 (対売上高比率)	8.7億円 (0.4%)	15.7億円 (0.7%)	+80.3%	経常利益の増 11.6億円 固定資産除却損の増 1.4億円 利益増に伴う税金の増 3.3億円

総資産	858億円	851億円	-0.8%	売上債権(主に部品事業)の増 6.8億円 在庫(主に売金型)の増 7.8億円 有形固定資産の減 26.9億円 投資有価証券、子会社株式の増 8.2億円
株主資本	253億円	268億円	+5.9%	利益剰余金の増 12.5億円 有価証券評価差額金の増 2.5億円
有利子負債	259億円	222億円	-14.4%	-

2005年3月期 経常利益変化(単独ベース)

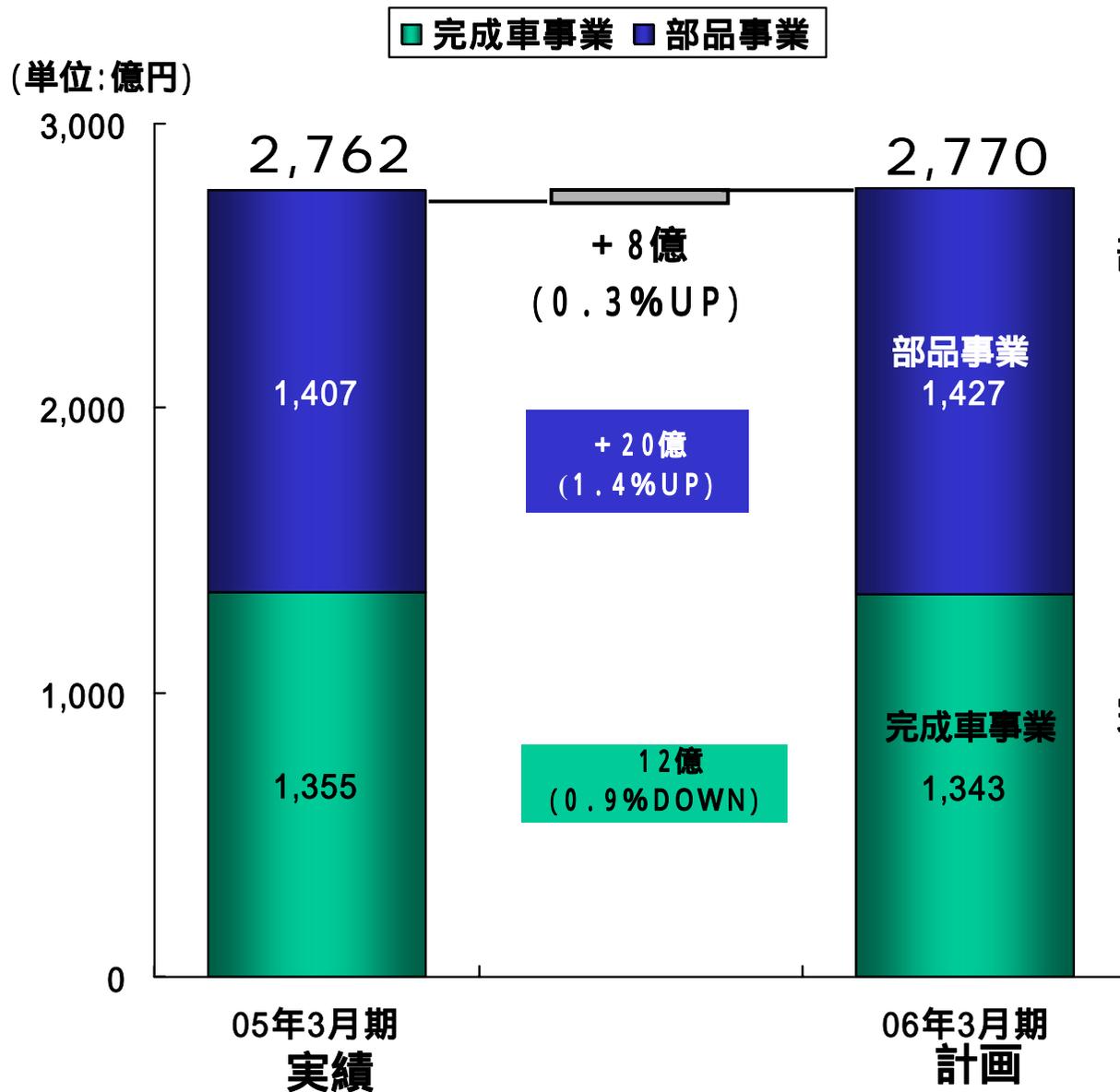
売上高	2,033.5	+	234.4	2,267.9
(完成車事業)	(1,246.3)			(1,355.5)
(部品事業)	(787.2)			(912.4)

生産台数	1,180.8千台	+	87.8千台	1,268.6千台
(内、完成車事業)	(194.7千台)		(+24.4千台)	(219.1千台)



2006年3月期 決算予想

	2005年3月期 実績	2006年3月期 予想	対前年度 伸び率
売上高	2,762億円	2,770億円	+0.3%
営業利益 (対売上高比率)	58.3億円 (2.1%)	61.0億円 (2.2%)	+4.7%
経常利益 (対売上高比率)	61.3億円 (2.2%)	65.0億円 (2.3%)	+6.0%
当期純利益 (対売上高比率)	33.5億円 (1.2%)	35.0億円 (1.3%)	+4.6%

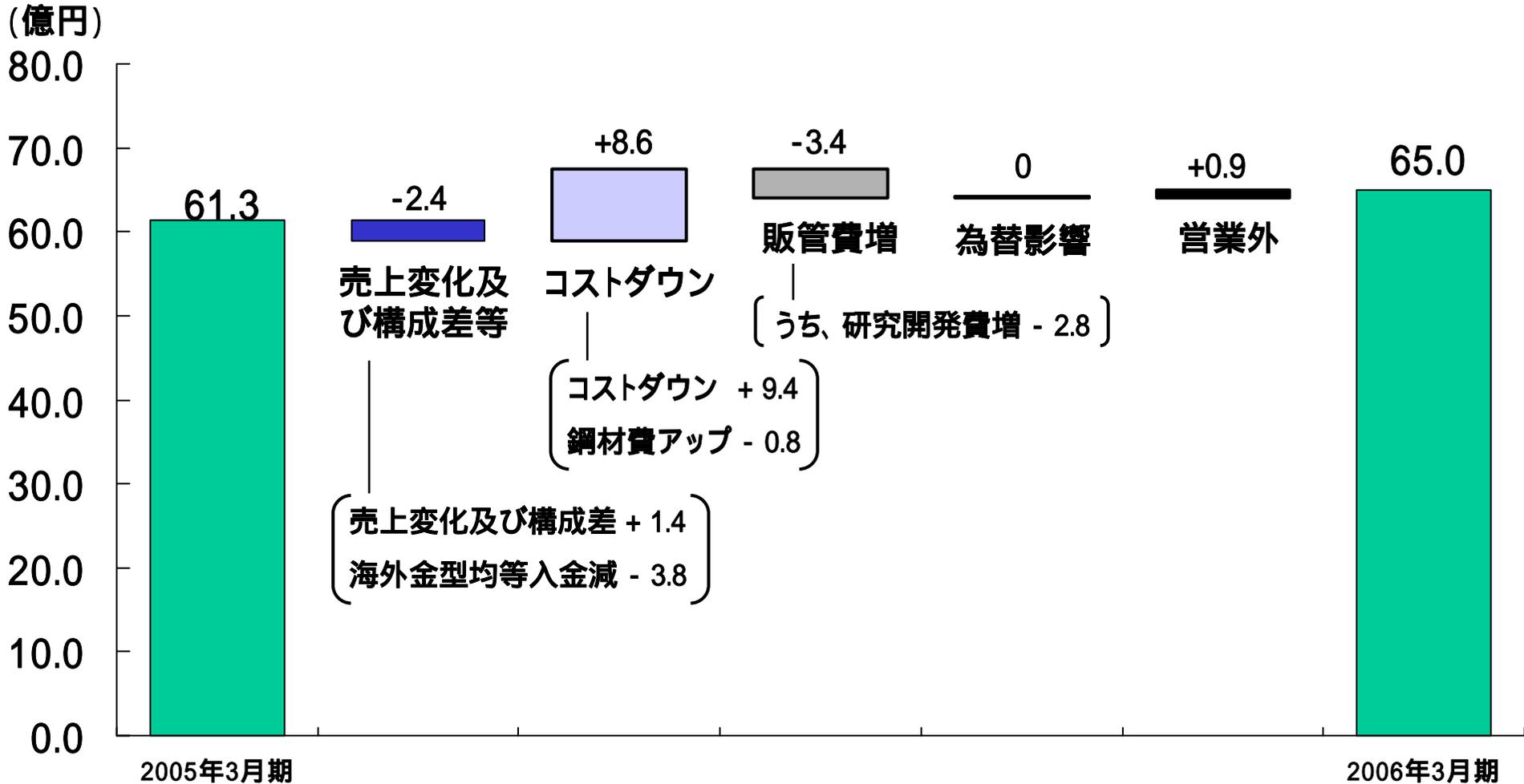


ポイント

部品事業	+ 20
・ 日本	- 40
・ 北米	+ 30
・ その他(アジア)	+ 30
完成事業	- 12
・ 台数減	- 61
(-9.9千台)	
・ モデルミックス	+ 49

2006年3月期 経常利益変化(連結ベース)

売上高	2,762.5		+ 7.5		2,770.0
(完成車事業)	(1,355.5)		(- 12.7)		(1,342.8)
(部品事業)	(1,407.0)		(+ 20.2)		(1,427.2)



代表取締役社長

大竹 茂

第8次中期経営計画の実績

(2002年4月1日～2005年3月31日)

全社方針

競争力ある生産体質を構築し、収益力の強化を図る

- ◆ 完成車事業は軽として圧倒的な競争力ある生産体質を構築
- ◆ 部品事業の収益力を強化し、グローバル競争の中で生き残る体質を構築
- ◆ お客様視点で信頼性の高い品質保証体制の確立

完成車事業

- ◆ 生産能力アップ
- ◆ コスト削減

フレキシブルラインの導入

塗装工程の効率化（直行率アップ）

組立工数の低減（サブラインの設置）

部品事業

- ◆ 収益性向上
 - ◆ 事業規模の拡大
- 基幹部品事業の拡大

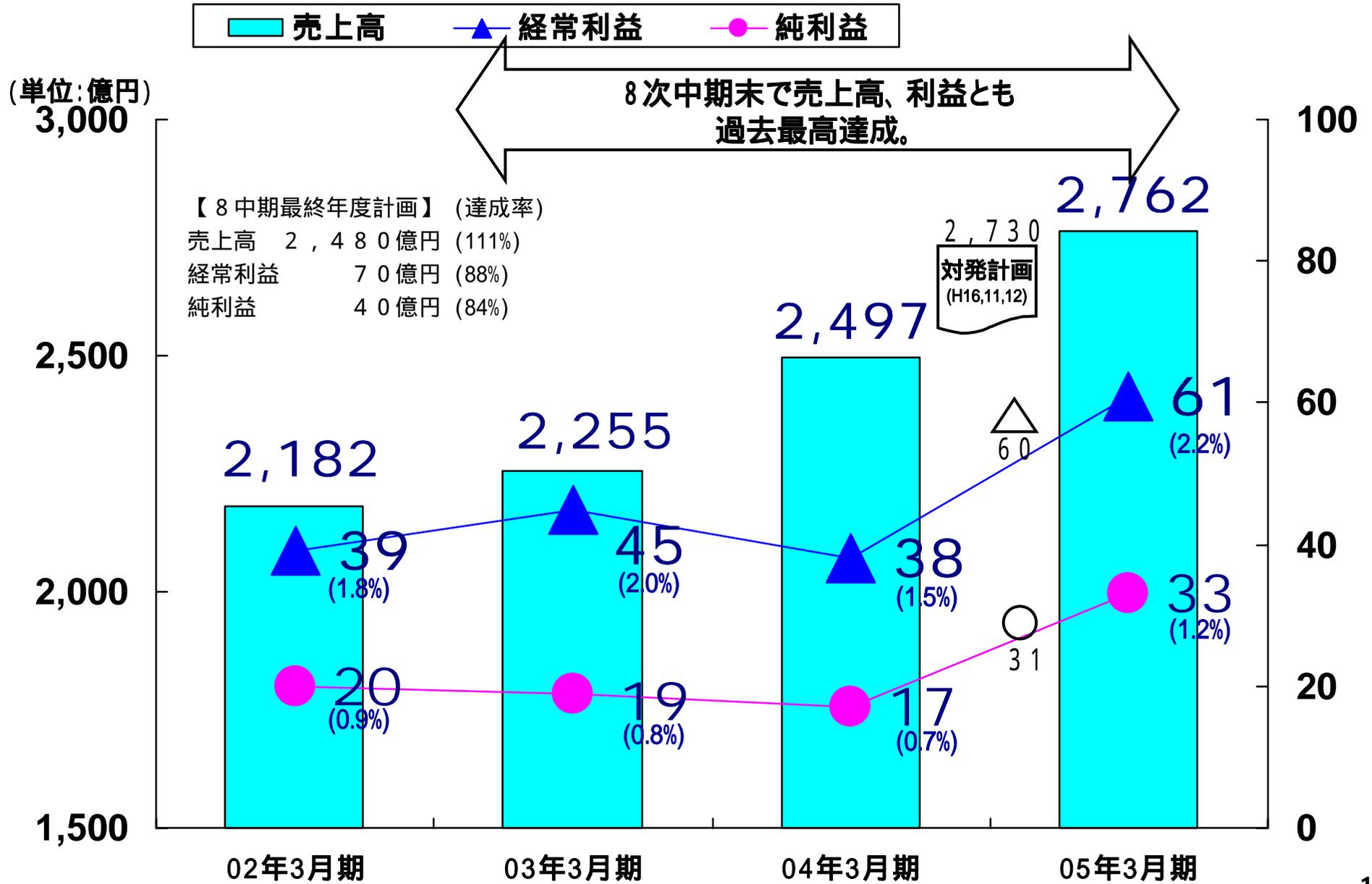
燃料タンク：樹脂タンクの量的拡大とエバポ
規制強化への対応技術開発

サンルーフ：ラインナップの充実とコスト削減
補修パーツ：事業規模の拡大

海外拠点の拡充

販路の拡大

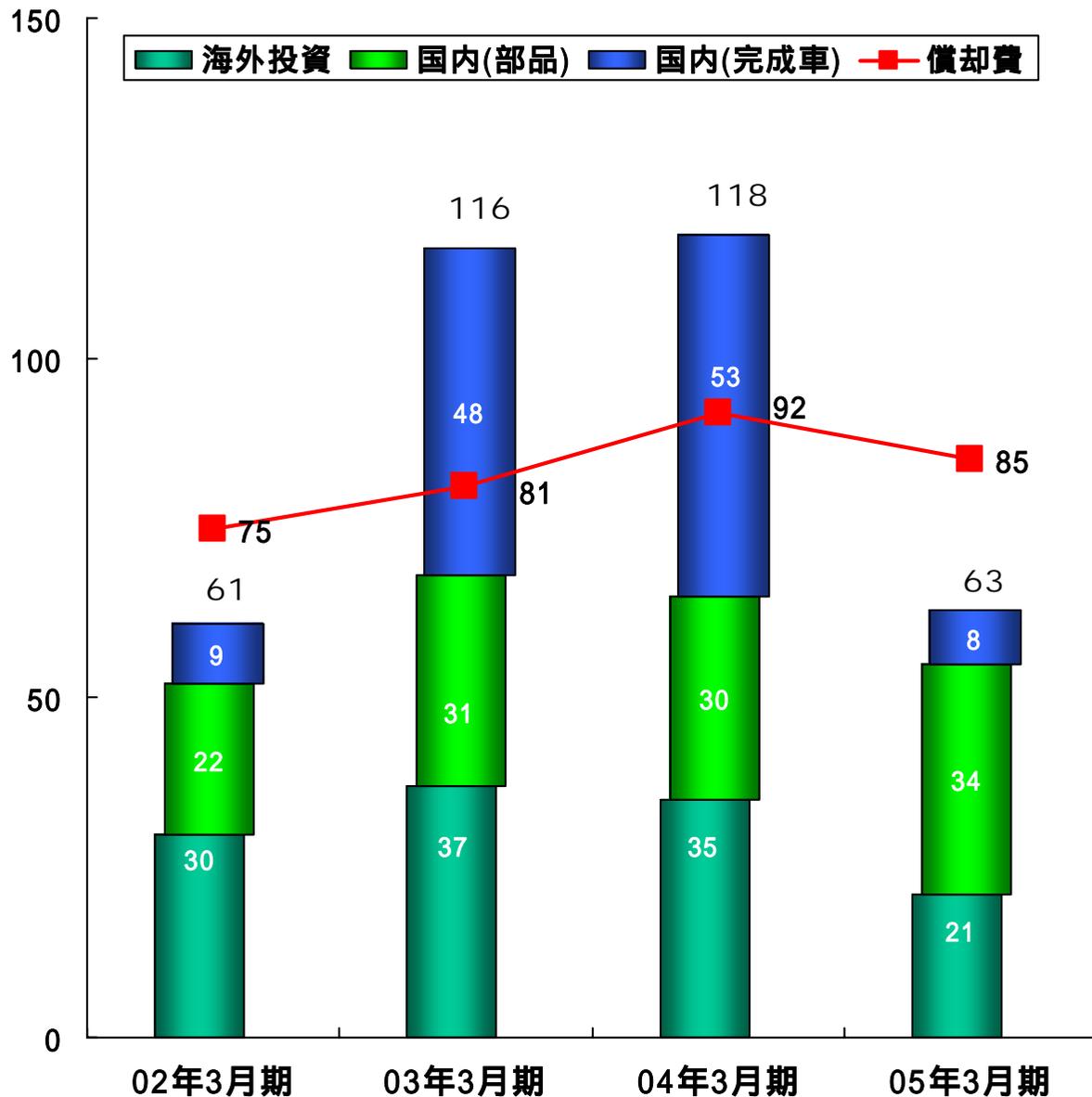
第8次中期実績レビュー 売上高・収益(連結ベース)



生産基盤づくり(能力 / 規模拡大)は実施できた

能拡 / 効率アップ投資は146億円、全体投資の49%

(単位:億円)



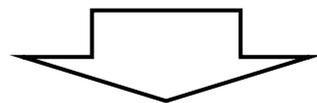
(単位:億円)

	完成車	部品	計
能拡 / 効率	83	63	146
新機種	7	88	95
合理化 / 更新	19	37	56
合計	109	188	297

国内 95
海外 93

樹脂タンク	34
板金	14
二輪	15

**「競争力ある生産体質を構築し、
収益力の強化を図る」**



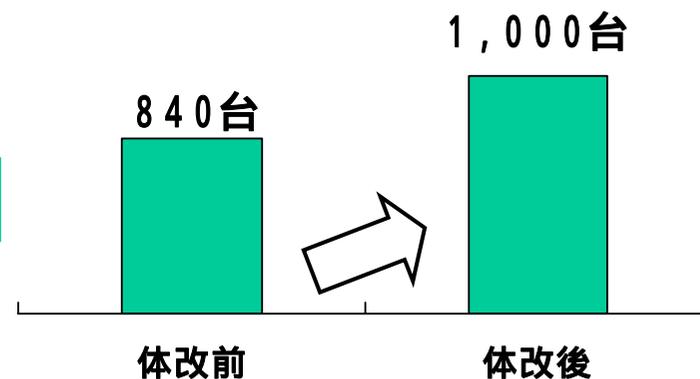
- 1, 完成車事業: 生産体質改革が結実**
(大幅な「生産能力拡大」と「生産効率向上」を実現)
- 2, 部品事業: 基幹部品のグローバル生産体制を充実**
- 3, 機構改革: 「モノづくり」をキーワードに技術交流
のできる体制を確立**

完成車事業

【生産能力の拡大】

日産台数

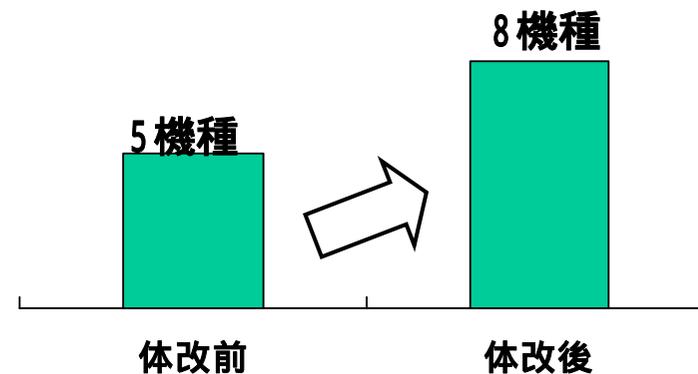
20%UP



【生産効率の向上】

生産可能機種数

60%UP



要員効率

16%UP

新機種導入時の投資額
(金型除く)

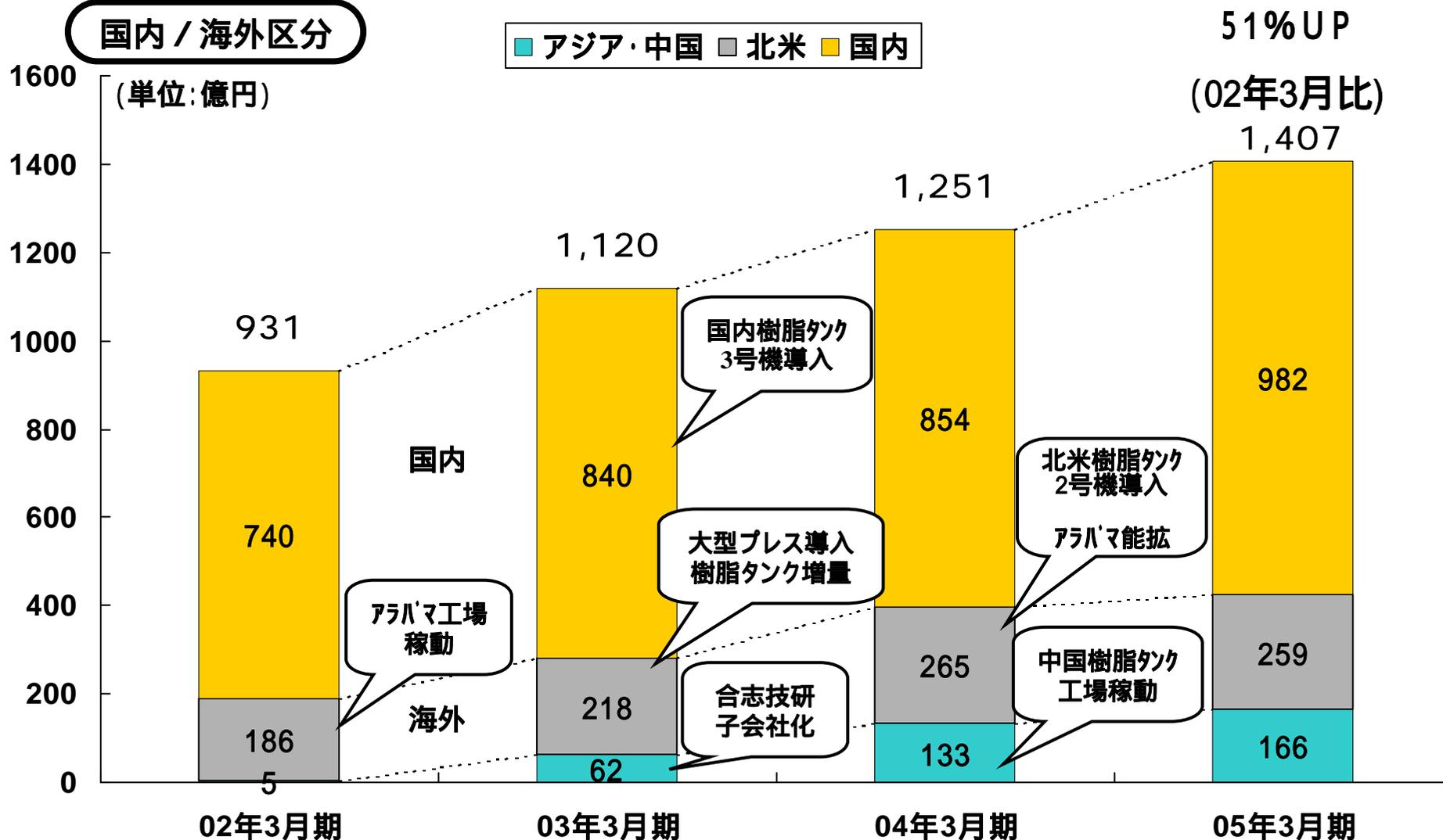
65%DOWN

基幹部品のグローバル生産体制を充実

部品事業売上高

国内売上 33%UP 海外売上高80%UP

国内 / 海外区分



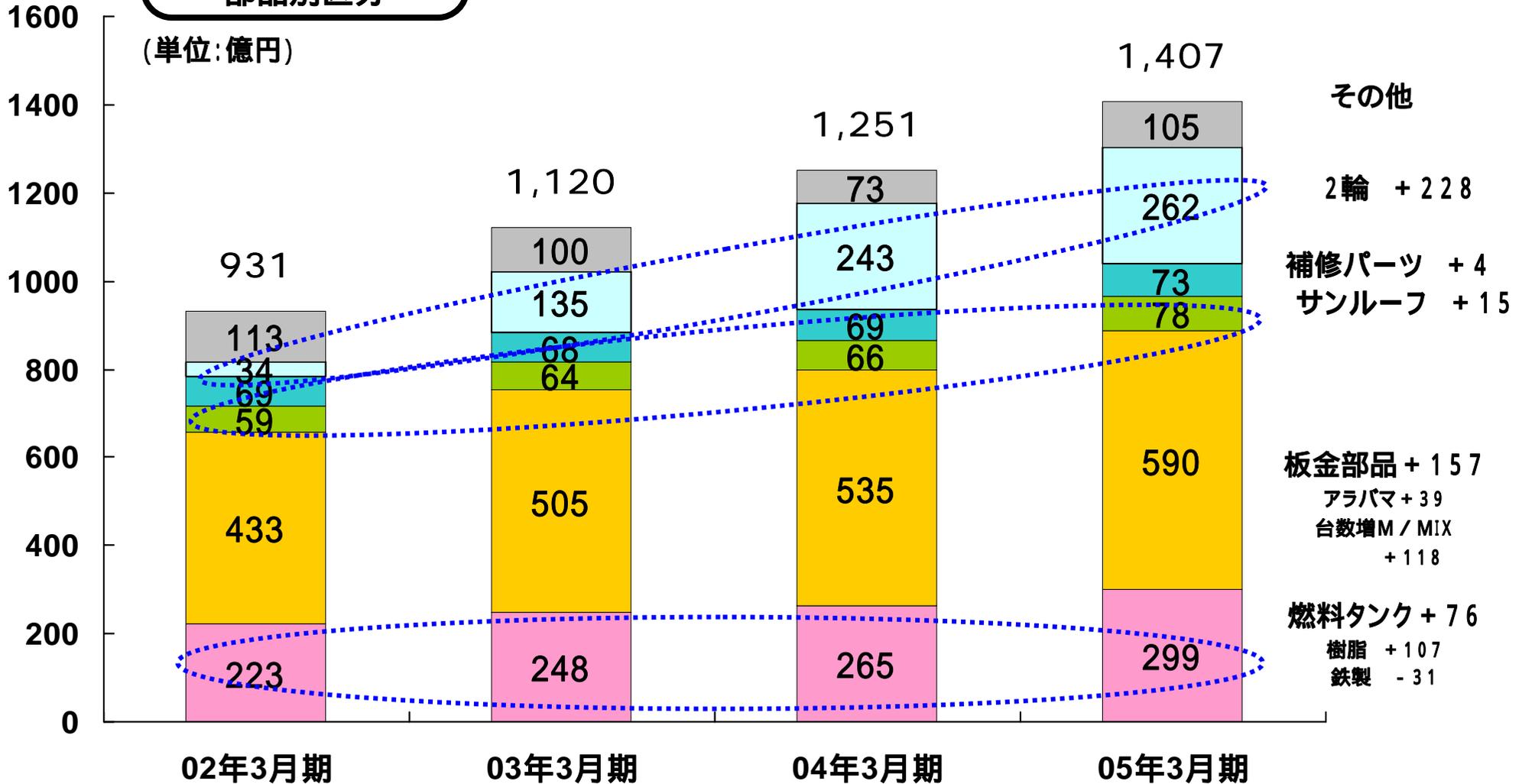
樹脂製タンクの拡大、二輪事業への業容拡大

売上高

樹脂製タンク売上高 122%UP
二輪事業売上高 670%UP

部品別区分

(単位:億円)



第9次中期経営計画のフレームワーク

(2005年4月1日～2008年3月31日)

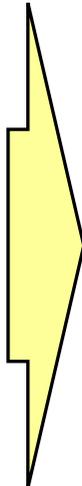
【自動車業界の動向】

- ◆成熟市場からアジア・中国市場への進出加速
- ◆グローバルベースでの競争の激化
- ◆環境対応技術及び安全対応技術の商品化が加速
 - ～低燃費実現技術開発
 - ～代替エネルギー製品開発
 - ～リサイクルニーズ対応技術開発

【自動車部品業界の動向】

- ◆グローバルベースでの事業展開を可能にできる企業体質の構築
- ◆コスト競争に勝ち残る生産技術の確立
- ◆環境・安全対応技術の構築

【八千代の取組み】

- 
- ◆グローバルベースで競争力ある企業体質構築
 - ◆環境対応技術の確立と製品化
 - ◆品質の革新的向上

将来の目指す姿

お客様の満足のために
卓越した技術と
特長ある製品を供給する
提案型サプライヤー

◆ **完成車事業**
車体骨格部品の
設計から生産まで提案できる
製造メーカーへの展開

◆ **部品事業**
燃料タンク : フューエルシステム
コンポーネントメーカーへ
サンルーフ : 世界のトップ3に
入るメーカーへ

第9次中期計画のビジョン

生産領域の体質改革を
全社的に展開し、競争力ある企業
体質を構築する。

◆ **完成車事業**
更なる体質強化による
自前 / 自立の足固めを行う。

◆ **部品事業**
品質の向上と部品 / 完成車
共創展開による生産効率の
追及を行う。

第8次中期計画のビジョン

生産活動を通じ
企業価値の継続的拡大を図り、
世の中に存在を期待される
企業となる。

◆ **完成車事業**
軽で圧倒的な競争力ある
生産体質を構築する。

◆ **部品事業**
部品事業の生産体質を強化し、
グローバル競争の中で生き残れる
体質を作る。

第8次中期計画

第9次中期計画

将来の目指す姿

お客様の満足のために
卓越した技術と
特長ある製品を供給する
提案型サプライヤー

◆ **完成車事業**
車体骨格部品の
設計から生産まで提案できる
製造メーカーへの展開

◆ **部品事業**
燃料タンク：フューエルシステム
コンポーネントメーカーへ
サンルーフ：世界のトップ3に
入るメーカーへ

第9次中期

質の向上

完成車事業 ・体質改革の進化
・フレキシ性の拡大
(ボトム体質)

部品事業 ・基幹事業の拡充
・稼働率の向上

工程内での品質保証体制確立
(後始末 工程内化)

第8次中期

ハードの基礎固め

完成車事業 ・能力拡大と効率向上

部品事業 ・規模拡大と収益性向上
(樹脂タンクを中心に)
・業容の拡大

第8次中期計画

第9次中期計画

全社方針

競争力ある生産体質を構築し、収益力の強化を図る

- ◆ 完成車事業は、更なる体質強化による自前自立の足固め
- ◆ 部品事業は、完成車との共創展開による生産効率の追求
- ◆ お客様視点で信頼性の高い品質保証体制の確立

完成車事業

- ◆ 生産タフネス強化
- ◆ コスト削減

体質改革ラインの進化

極限の品質レベル追求

自前化に向けた人づくり

部品事業

- ◆ 生産体質向上
- ◆ 業容拡大への足固め

基幹事業の拡充

燃料タンク：樹脂タンクの量的拡大と環境対応

サンルーフ：ラインナップの充実とコスト削減

二輪事業：環境対応

補修パーツ：事業規模の拡大

販路の拡大

グローバルレベルでの人づくり

提案型企業への変革

総仕上げ

完成車委託事業、自立への足固め(基盤造り)

Q・Cの圧倒的
優位性を極める

体質改革の進化 コスト6%削減

- ~ 人効率の向上
- ~ 生産台数フレキの拡大
(変動費用900台/日にて1000台/日生産の実現)
- ~ 省人施策

極限の品質レベル追求

- ~ 生産工程での品質保証体制の確立
後始末 工程内保証へ

自前化に向けた人づくり

- ~ プロジェクトへの参画

体製造り

体改プロジェクト

1000台/日 能扩で
体質強化

自前化率	8中以前	9中末
新機種メンバー	50%	80%
体改メンバー	50%	90%

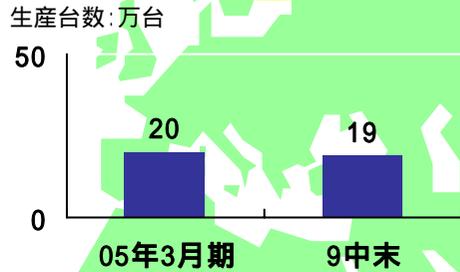
部品事業のフレームワーク

グローバルベースでのQCD水平展開

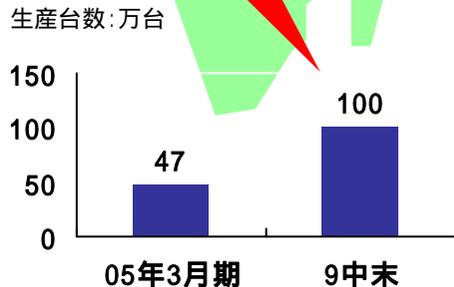
(高位平準化)

- ◆ 完成車との共創展開で、生産体制を支える「エキスパート集団」の養成

欧州



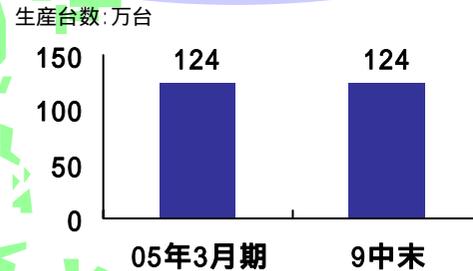
拡大成長の
中心エリアは
アジア地区



日本

グローバル戦略の企画、立案と提示
～横串機能
～システムの一元化

グローバル化を支える人づくり
～開発・品質・製造技術強化



アジア

事業規模の継続的拡大

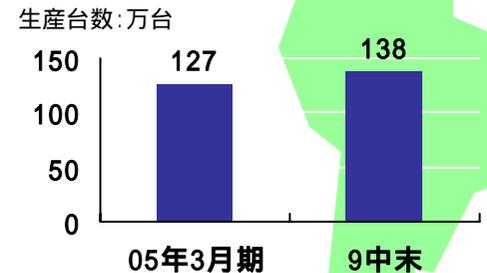
二輪の環境対応部品生産、販売

新規顧客の開拓

米国

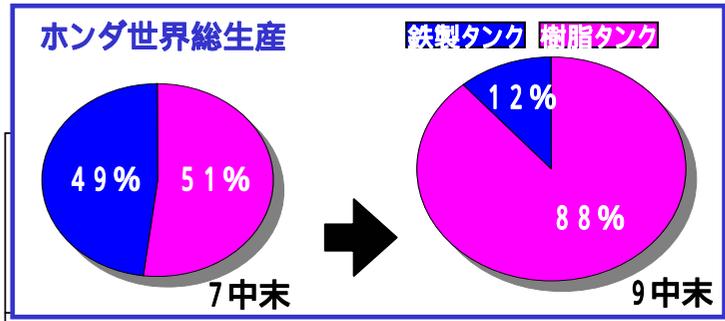
開発の現地化

管理領域の効率向上

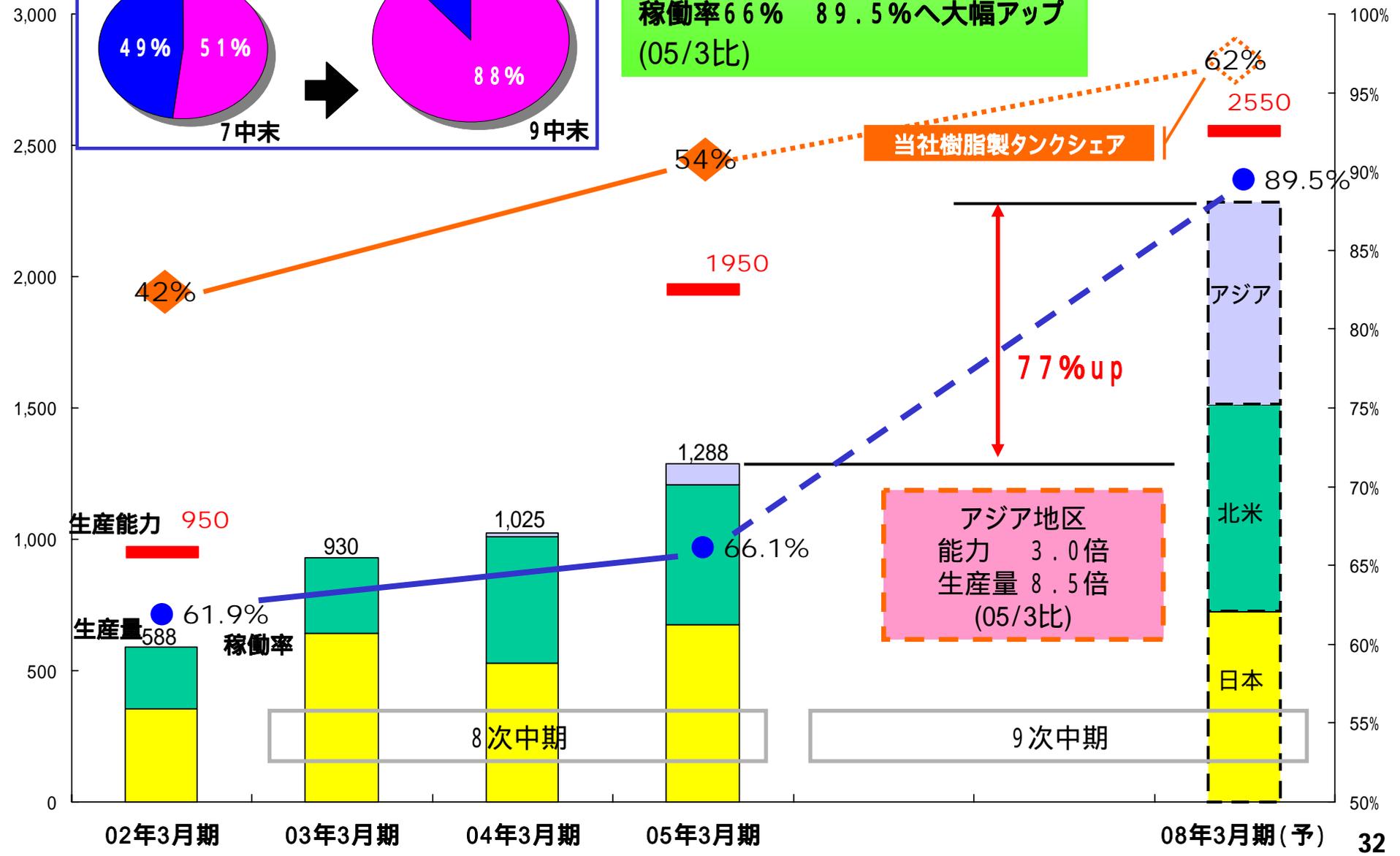


樹脂製タンクのグローバル拠点別推移

(単位:千台)



能力30%アップ、生産量77%アップ
 伸びの中心はアジア地区
 稼働率66% 89.5%へ大幅アップ
 (05/3比)

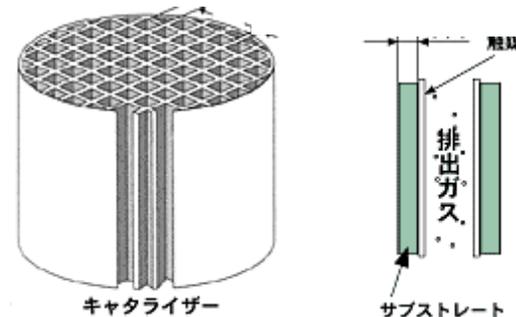


二輪環境対応技術の確立

カタライザーとは

排気ガス浄化ハニカム触媒のことで、機能としては有害物質を含んだ排気ガスを、フィルターを通すことにより、浄化した排気ガスとして放出する。

当社(合志技研)では、小型スクータ向けカタライザーのメタル担体部の開発を行い、生産技術の確立ができた。独自の製法によるコスト競争力と高効率生産性に特長。



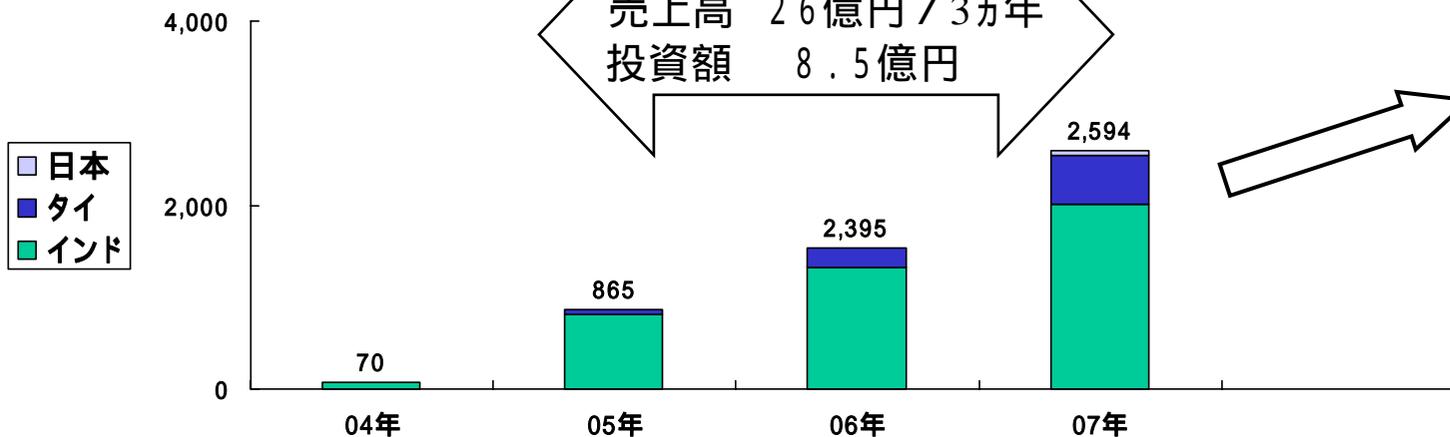
= 各国エミッション法規導入タイミング =

	8中		9中		10中		備考
	04年	05年	06年	07年	08年	08年	
インド		bharat (一部担体)			bharat (担体)		サイズが異なり適用
タイ					level 6 (担体)		
インドネシア				Stage-2 (ヒートチューブ)			
ベトナム							
中国	Euro (担体)			Euro (担体)			
日本				原付・軽2輪 (担体)			

日本における規制の概要(04/6制定)

	一酸化炭素	炭化水素	窒素酸化物
現行	13.0g/km	2.0g/km	0.3g/km
改訂	2.0g/km	0.3g/km	0.15g/km
削減率	85%	85%	50%

生産数動向(千台)



売上高 26億円 / 3カ年
投資額 8.5億円

アジア地区での
増量を見込

第9次中期末数值目標

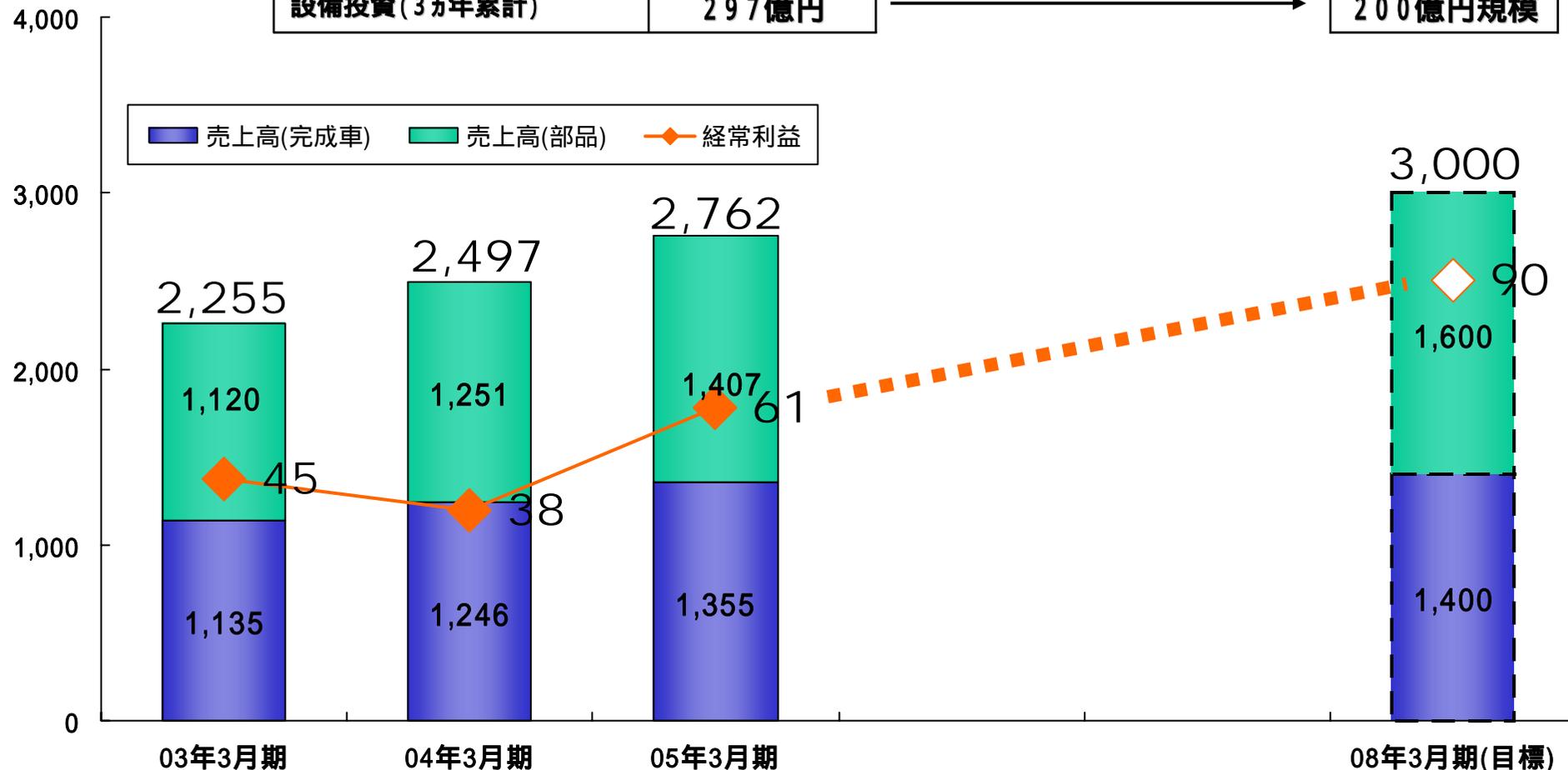
	05年3月期
株主資本経常利益率(ROE)	12.1%
有利子負債依存度	27.6%

08年3月期
12%以上
18%以下

	8次中期
設備投資(3ヵ年累計)	297億円

9次中期
200億円規模

(単位:億円)



本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいて算定しており、判断や仮定に内在する不確定性及び今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる可能性があります。尚、上記の不確定性及び変動可能性を有する要素としては、主に以下のようになります。

- ・主要市場における経済情勢及び需要の変動
- ・為替相場の変動
- ・主要市場における貿易規制等の各種規制
- ・主要市場における政治情勢
- ・当社が事業活動を行う上生じる当社の責めに帰すことのできない様々な障害

2005年3月期 決算説明会



2005年 5月12日

ホームページ: <http://www.yachiyo-ind.co.jp/>

問い合わせ先: 事業管理室 栗原 義弘

e-mail: yoshihiro_kurihara@yachiyo-ind.co.jp

TEL (04)2954-7331